

17) 形成外科臨床研修プログラム

研修医氏名

指導医氏名

I. 一般目標

1. 診断、治療、術後の経過観察などの流れを理解し、治療計画の立案ができる。
2. 創傷治療の原理を理解し、縫合創、皮膚欠損の治療管理ができる。
3. 形成外科における簡単な skin surgery の基礎的知識を習得する。
4. 患者及び家族との望ましい人間関係を確立できる。
5. チーム医療の原則を理解し、他の医療メンバーと協調できる。

II. 経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

II-A- (1) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

	研修医評価	指導医評価
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意識を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。	A B C D	A B C D
2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。	A B C D	A B C D
3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。	A B C D	A B C D

II-A- (2) 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために、

	研修医評価	指導医評価
☆ 創傷治癒の過程を説明できる。	A B C D	A B C D
☆ 外傷患者の創の状態を評価できる。	A B C D	A B C D
☆ 熱傷の深度を評価できる。	A B C D	A B C D
☆ 顔面骨骨折の診断ができる。	A B C D	A B C D
☆ 褥瘡の評価ができる。	A B C D	A B C D

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目

II-A- (3) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

	研修医評価	指導医評価
1) 細菌学的検査・薬剤感受性検査 ※ ・検体の採取（痰、尿、血液など） ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）	A B C D	A B C D
2) 単純X線検査 ※	A B C D	A B C D
3) X線CT検査 ※	A B C D	A B C D

II-A- (4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

	研修医評価	指導医評価
1) 圧迫止血法 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
2) 包帯法 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
3) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
4) 局所麻酔法 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
5) 創部消毒とガーゼ交換 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
6) 簡単な切開・排膿 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
7) 皮膚縫合法 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D
8) 軽度の外傷・熱傷の処置 を実施できる。 ※	A B C D	A B C D

※必修項目：下線の手技を自ら行った経験があること

Ⅱ-A- (5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

		研修医評価	指導医評価
	1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む）ができる。	A B C D	A B C D
	2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる。	A B C D	A B C D
☆	創の状態に応じた治療法を選択できる。	A B C D	A B C D
☆	熱傷深度に応じた治療方針を立てることができる。	A B C D	A B C D
☆	顔面外傷に対する治療方針を立てることができる。	A B C D	A B C D
☆	褥瘡の状態に応じた治療法を選択できる。	A B C D	A B C D

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目

Ⅱ-A- (6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

		研修医評価	指導医評価
	1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。 ※	A B C D	A B C D
	2) 処方箋・指示箋を作成し、管理できる。 ※	A B C D	A B C D
	3) 診断書、死亡診断書、死体検案書、その他の証明書を作成し、管理できる。 ※	A B C D	A B C D
	4) 紹介状と、紹介状の返信を作成でき、それを管理できる。 ※	A B C D	A B C D

Ⅱ-A- (7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

		研修医評価	指導医評価
	1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。	A B C D	A B C D
	2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	A B C D	A B C D
	3) 入退院の適応を判断できる。（ディサージャリー症例を含む）	A B C D	A B C D
	4) QOL (Quality of Life) を考慮にいたった総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画する。	A B C D	A B C D

B. 経験すべき症状・病態・疾患

Ⅱ-B-1. 頻度の高い症状

	1) 熱傷 ※	A B C D	A B C D
--	---------	---------	---------

Ⅱ-D-その他

		研修医評価	指導医評価
	1) 植皮術ができる。	A B C D	A B C D
	2) 創閉鎖に必要な皮弁の選択ができる。	A B C D	A B C D
	3) 熱傷患者の全身管理ができる。	A B C D	A B C D
	4) 顔面骨折の診断に応じた術式を選択できる。	A B C D	A B C D
	5) 褥瘡の管理ができる。	A B C D	A B C D
	6) 形成外科で扱う各疾患の病態、治療法を説明できる。	A B C D	A B C D
	7) 指導医のもと外来小手術の執刀を行う。	A B C D	A B C D

ゴシック体：Ⅲ-D-その他は当該科で経験が必要とされる項目

1. 研修指導体制

1. 担当指導医

- 研修医1名に対して1名の担当指導医を置く。
 - 担当指導医は、全研修期間を通して研修の責任を負う。
 - 必ず1日1回研修医と連絡をとり、研修予定・研修内容をチェックする。
 - 必要に応じて、個別に指導し、また、研修スケジュールの調整を行う。
 - 希望に応じて公私にわたる研修医の相談に応じる。
- 上級医は担当指導医を補佐し、処置等直接指導を行う。
 - 担当看護師なども適宜、研修医の指導を行う。

2. 研修方略

1. 外来研修
 - a. 外来見学を通して、外傷、熱傷診療の実際を理解する。
2. 病棟研修
 - a. 入院患者の術前・術後の診察、管理等を担当する。
3. 手術研修
 - a. 手術助手につくことで、基本的な手術手技やチームワークを理解する。
4. 講義
 - a. 外傷、熱傷、手術手技などについての理解を深める。
5. 縫合練習
 - a. 練習器具を利用した実習で縫合手技の確認と反復練習を行う。

3. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:20 外来 手術研修	8:20 外来 手術研修	8:20 外来 手術研修	8:20 外来 手術研修	8:20 外来 外来研修
午後	外来研修	手術研修	外来研修	手術研修	手術研修

- ・ 病棟研修、縫合練習は随時行う。

4. 研修評価項目

1. 自己評価と指導医評価を規定に従い研修終了後に入力する。
2. 担当指導医による終了面接を行い、研修総括を行う。
3. 共通Aの評価表を規定に従い入力する。

II- (8) 研修評価

研修全般に対する総合評価		研修医評価				指導医評価			
	1) 仕事の処理	A	B	C	D	A	B	C	D
	2) 報告・連絡	A	B	C	D	A	B	C	D
	3) 患者への接し方	A	B	C	D	A	B	C	D
	4) 規律	A	B	C	D	A	B	C	D
	5) 協調性	A	B	C	D	A	B	C	D
	6) 責任感	A	B	C	D	A	B	C	D
	7) 誠実性	A	B	C	D	A	B	C	D
	8) 明朗性	A	B	C	D	A	B	C	D
	9) 積極性	A	B	C	D	A	B	C	D
	10) 理解・判断	A	B	C	D	A	B	C	D
	11) 知識・技能	A	B	C	D	A	B	C	D